伊丹市文化財ボランティアの会

火曜会通信

第８５号
発行日　：令和２年 5 月 15 日
発　行　：伊丹市文化財ボランティアの会
発行所　：伊丹市千僧１－１－１
伊丹市教育委員会事務局内

令和２年度総会開催について

令和 2 年度総会は当初、4 月 14 日（火）に開催される予定でしたが、市の新型コロナウィルス感染症対策を受けて中止となりました。そのため、総会の議案決議は書面により行われました。

4 月 28 日から会員 42 名に議案書が配布され、そのうち 40 名の賛成を確認し、令和 2 年度の総会議案は議決されました。

承認された議案は下記の通りです。

平成 31 年度　活動報告
平成 31 年度　会計報告
平成 31 年度　会計監査報告
令和 2 年度　　活動計画案
令和 2 年度　　会計予算案

また、令和 2 年度役員人事は下記の通り提案され、承認されました。

会　長	末次　弘幸
副会長	内橋　義昭
	高木　博美
会　計	丹野　順子
幹　事	竹中　稔
	松田　孝雄
	竹本　章
	金川　幸雄
	荒西　克招
	山本　康夫
会計監査	酒井　正憲
顧問	池田　利男
	内田　襄

本年度は、角谷弘子さんが新会員として入会されました。

また、内田襄さん・松田孝雄さん・酒井正憲さんが役員を、半澤恵子さん（退会）・吉岡弘員さん・山田稔さん・阿部恵美子さんが幹事を退任されました。

（金川　記）

第 25 回　文化財ボランティア養成講座

令和 2 年 1 月 14 日（火）から、第 25 回文化財ボランティア養成講座が始まりました。

今回は 7 名が参加しました。オリエンテーションの後、4 回の講座を受講し、3 月 14 日（土）の史跡めぐりの準備を行いました。しかし、新型コロナウィルス感染症拡大予防のため、本番の史跡めぐりが実施できず、養成講座は終了となりました。

【ボランティアガイドの案内】　伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。市内の史跡・文化財のガイドのお問い合わせは、伊丹市教育委員会事務局内文化財担当までお願いします。（☎：072-784-8090）

第25期　新人紹介

新しく会員となられた方の自己紹介です。
みなさん、よろしくお願いします。

角谷弘子（かくたに　ひろこ）

伊丹市に住んで 15 年になります。

近くに旧西国街道があり、よく利用します。猪名野神社、臂岡天満宮、長寿蔵などは散歩などでよく訪れます。案内板を読んだり、そのたたずまいや遺跡などから、伊丹の古い歴史と文化について関心を持ち、もっと詳しく知りたいなぁと思っていましたが、なかなか学ぶ機会がありませんでした。

この度、文化財ボランティア養成講座があることを知り、受講させていただきました。歴史が苦手の私ですが、どの講座も興味深く新鮮な気持ちで学ばせていただき、さらに伊丹の文化財について深く学びたいと思う気持ちが強くなりました。ご指導よろしくお願いいたします。

ボランティア活動については学生の頃より関心があり、これまで様々な活動に参加させていただきましたので、活動を楽しみにしています。

屋外研修（会員有志）

京都御所の東を北から下がる

今回は 1 月 17 日（金）開催の案内が3日前の 14 日定例会であり、予告期間が短かいので集まる人数が少ないことが懸念されましたが、14 名の参加を得ました。また当日の天気予報は曇り雨でしたが、雨の降る気配はなく風もない温暖な散歩日和に恵まれました。

会員が分担してガイドしながら信長の廟所、山中鹿介の墓所、明智光秀の塚を巡りました。順路は以下のとおりです。

地下鉄鞍馬口駅→上御霊神社→天寧寺→阿弥陀寺（信長本廟）→本満寺（山中鹿介墓）→出町商店街→加茂川飛び石→加茂大橋→梨木神社→京都歴史資料館→下御霊神社→革堂→京阪三条→光秀塚→阪急河原町駅（解散）

まず上御霊神社の境内を通り抜けます。同境内は「御霊の杜（もり）」と言われ、応仁元年（1467）の合戦が始まり、応仁の大乱の発端となったところです。

次に寺町通りに面した天寧（てんねい）寺の門前を通りました。表門は左右の柱と梁の枠に比叡山の山並みが収まることから、「額縁の門」と呼ばれています。

信長公本廟の阿弥陀寺

阿弥陀寺は浄土宗の寺院、山号は蓮台山、本尊は阿弥陀如来です。天文24年（1555）玉誉清玉が近江国坂本に創建したのが始まりとされています。 阿弥陀寺には信長の一族や家臣が眠る墓があります。阿弥陀寺開山の清玉上人は信長とは別懇の間柄だったようで、寺伝によると本能寺の変のとき清玉上人は僧徒を引き連れて駆けつけました。しかし信長は既に亡くなっていたのでその場で火葬し、遺骨を法衣に包んで持ち帰ったとされています。

大正 6 年（1917）に行われた宮内庁の調査で織田信長の廟所であると認められました。信長の息子信忠、本能寺の変の死者を弔う供養塔や信長とともに命を落とした森蘭丸の墓もあります。信長の命日である6月２日には法要が営まれ、多くの歴史ファンが訪れます。

山中鹿介の墓所本満寺

本満寺は日蓮宗の寺院で幾度も火災に遭って現在の本堂は昭和期に再建されたものです。山門をくぐると立派なしだれ桜があり、山中鹿介の墓があります。

本満寺を後に出町商店街の豆腐屋さんで買い物して通り抜け、加茂川の河川敷に降りて昼

本満寺境内で会員がガイド

食にしました。トンビにご馳走をさらわれないように警戒しながらの食事でした。食事の後は河川に並べた亀の形の飛び石を皆さん（私を含め）ご高齢にもかかわらず石から石へと元気に飛び跳ねて対岸まで無事に往復しました。

加茂大橋から今出川通りを西へ進み、御所の手前で左に折れて御所の木立ち沿いに南へ下ります。途中で梨木神社に立ち寄り、京都歴史博物館を大急ぎで見学しました。天台宗行願寺、通称革堂（こうどう）前を通り、三条通りに出て東へ進み、最後の目的地光秀塚に向います。

光 秀 塚

白川の通りから少し奥まった所、住宅が立て込んだ中に見落としそうな祠があります。主君を

光秀塚の駒札

討った反逆者と見る世間から逃れるように、ひっそりと光秀が祀られています。

＜駒札（京都市）より抜萃＞

「天正 10 年（1582）光秀は本能寺に宿泊していた主君織田信長を急襲し自害させました。しかし光秀は備中高松城から引き揚げてきた羽柴秀吉と山崎（天王山）で戦って破れ、僅かな家臣とともに近江の坂本城を目指して逃れます。そしてその途中、小栗栖（伏見区）の竹藪で地元の農民に襲われて重傷を負い自害して家臣に首を打たせたといわれています。･･･江戸時代の京都について記した地誌類にはその塚が蹴上付近にあり、三条通り北側の人家の裏側にあると記されています。･･･その後江戸時代中期の安永～天明初年ごろ（1770～80 ごろ）に蹴上の塚にあった石塔婆がこの地に移されてきました。以来この地が明智光秀を弔う地として知られるようになり、光秀の首もここに埋められたと伝えられています。また明智光秀を弔う場所はここ以外にも小栗栖の明智藪・胴塚があります。」

光秀塚を後に白川沿いに下って祇園の繁華街に入ると、さすがに観光客が多く見受けられました。京都の町ならではの狭い路地を通り抜け阪急河原町に予定時間どおりに到着、本日の歴史散歩を無事に終了しました。

（松田　記）

清和院御門前で

はじめに

北海道出身の私は昨年(2019 年)に入会し、有岡城跡について勉強していた時、同期生の方から「北海道にお城はあるの？五稜郭は？」と質問されました。過去に地元の「五稜郭」に数回行ったことがありましたが、詳しいことは知りませんでした。

この機会に、改めて調べてみようと思いました。

A 全体の概要

1. 五稜郭の場所

北海道は 14 の支庁(振興局)に分かれ、テレビ・ラジオの天気予報では近隣の支庁とまとめられ、6～7支庁エリアで呼ばれています。函館は渡島・桧山地方に位置しています。

五稜郭は函館山から約6km 離れた函館市のほぼ中央となる場所にあります。この場所はちょうど浅いすり鉢の底のように低くなっている所で、周辺は箱館が開港された時たくさんの「ネコヤナギ」が生えていました。このため別名「柳野」(やなぎの)と呼ばれており、当時は至る所が水はけの悪い湿地でした。

2. 形と大きさ

城塞都市　パルマノーヴァ(イタリア)

稜堡(りょうほ)と呼ばれる5つの角があり、星形の五角形。この上に土塁また石垣も積まれ、その周りには水堀があります。星形の土塁の南西側には、半月堡(はんげつほ:または馬出塁)と呼ばれる三角形状の土塁があり、その周りもまた水堀となっています。 五稜郭のような珍しい形は、約 500 年前の 16 世紀頃のヨーロッパで考えられ、その後欧州各地に造られた「城塞都市」をヒントにしたものです。そこからこの形を「西洋式土塁」と呼んでいます。

このような形の五稜郭は、日本では函館市と長野県佐久市の龍岡(たつおか)城の2か所だけとなっています。

★五稜郭主要データ

・史跡指定範囲の面積　約 251, 000 ㎡(東京ドーム5個分)　・史跡指定地の周囲　3km

・堀の周囲　1.8km　・堀の幅　最大30m　深さ4～5m　・土塁の高さ　5～7m　・土塁の厚さ　27～30m(底部)・直径　500m(東西 500m×南北 500m)

・別称　「亀田御役所土塁」「柳野城」

B 歴史

1. 箱館開港と奉行の設置

嘉永6年(1853)ペリー提督率いるアメリカ艦隊が来航、翌年徳川幕府は日米和親条約を結び、下田と箱館の2つの港の開港を決定しました。(「箱館」は明治2年(1869)から「函館」という文字に改称)

開港に伴い、函館山の麓に奉行所(役所)を開くこととなります。箱館奉行である堀織部正利熙(ほりおりべのしょう　としひろ:後に外国奉行に任命、横浜港開港にも尽力)は箱館の地が海から攻撃を受けるとひとたまりもないことから、箱館奉行所を隣町・亀田の地へ新築・移転することを上申、これが五稜郭の築造へとつながっていきます。

明治 15 年に作成された木版画「函館真景」

2. 築造へ

新しい奉行所の設計は諸術調所(しょじゅつしらべどころ)教授役の蘭学者、武田斐三郎成章(たけだあやさぶろうなりあき:伊予大洲藩士)が行うことになりました。安政2年(1855)に箱館に来たフランス軍艦コンスタンティーン号の軍人から、ヨーロッパの築城術が書かれた本を贈呈され、五稜郭築造の参考にしたと言われています。 安政4年(1857)春から「亀田御役所土塁」(五稜郭を造る時の最初の名)の工事が始められ、約7年をかけて元治元年(1864)に完成。箱館山の麓にあった奉行所から五稜郭の新役所へ引っ越し、蝦夷地の開拓や外国船の取り締まり等箱館奉行所としての仕事が始まりました。しかしながら、この3年後の慶応3年(1867)に大政奉還となり、徳川幕府が終わりを告げます。翌年明治新政府の総督へ事務引き継ぎが行われ、徳川幕府の奉行所は箱館裁判所・箱館府へと移り変わることとなりました。

蘭学者 武田斐三郎

3. 箱館戦争

明治元年(1868)8 月、品川沖を脱走した榎本武揚(えのもとたけあき)が率いる旧幕府脱走軍艦隊が、10 月 20 日に蝦夷地へ到着、戊辰戦争最後の戦いとなる箱館戦争が開始されました。

上陸した旧幕府脱走軍は、その 6 日後には五稜郭を占拠することになりました。この後 12 月に、榎本武揚を総裁とする蝦夷地仮政権が樹立。しかし、翌年4月新政府軍の反撃が開始され、前年に最大の戦力だった軍艦「開陽丸」を失った脱走軍は、次第に形勢不利となります。5 月には明治新政府軍が箱館総攻撃を行い、その結果、脱走軍の最大の砦であった弁天岬台場が壊滅状態となり、その救援に向かった新撰組副長、土方歳三が銃弾に撃たれて戦死しました。

榎本 武揚

この時の五稜郭からは、土塁上の 24 ポンドカノン砲を箱館港に向けて発射し脱走軍の応援を行っていますが、 ほとんどの砲弾は港まで届かず、その効果は無いまま脱走軍の敗北は決定的なものとなりました。その後、5 月 18 日には榎本武揚以下の脱走軍が降伏、7か月に及んだ戦争が終結し、五稜郭は新政府に明け渡されました。

4. 復元整備

復元された箱館奉行所
（平成 22 年完成）

箱館戦争後の五稜郭は、明治政府兵部省（ひょうぶしょう）が管理、明治 4 年に開拓使本庁が札幌へ移転されることになりました。その庁舎を建設するための木材を必要とする理由によって、奉行所庁舎や付属建物の大半が解体されました。陸軍省の練兵場として利用後、大正３年からは市民の公園として開放、そして昭和 27 年(1952)北海道唯一の国指定特別史跡になりました。

五稜郭跡の保存整備は、昭和 58 年から本格的な試掘調査が実施され、その結果平成元年度までに、奉行所庁舎および付属建物 20 棟分、板塀・柵・上下水道・門などの付設遺構が確認されました。箱館奉行所の復元を中心に、史跡全体の当時の景観を再現することとなり、平成 18 年から着手、郭内の園路等を含めた全整備は平成 22 年度中に完了しました。

C 構造

1. 稜堡（りょうほ）

稜堡とは火器の発明により中世ヨーロッパで発達した城塞の防御施設のことです。昔の城郭は石製や煉瓦製の高い城壁や塔で構成されていました。大砲が戦闘で使われるようになると、それらは敵の目標となり、また砲弾が当たるとその破片が多くの兵士を負傷させるようになりました。このため城壁は次第に低くなり、石製から土製となって、大砲を据え付けるためにその幅は広くなったと言われています。また戦闘においても、長く突き出た稜堡を利用することによって正面・側面からの十字砲火が可能となり、隠れ場所のない敵兵に十字砲火を浴びせることができる利点があります。

2. 半月堡（はんげつほ）

半月堡は，五稜郭の正面入口を防御するための出塁です。当初は5か所に造る設計でしたが、資金不足の為、今のような南西側正面に1か所という形となりました。

3. 土塁・石垣

五稜郭の土塁は掘割からの揚げ土を積んだもので、土を層状に突き固める版築（はんちく）工法により造られています。 蝦夷地の冬は寒く、すぐに堀などの壁が凍りついて崩れ落ちてしまいました。そこで、崩れた堀の壁や土塁を抑えるため、備前の石工、井上喜三郎が中心となり、石垣を積む工事が始まりました。石垣の上部には防御のための「刎ね出し」が迫り出しています。

4. 建築物（土蔵・箱館奉行所）

★土蔵

明治期の解体を免れた築造当時の唯一の建物として、兵糧庫が1棟存在しています。この建物は土蔵造で、奉行所時代および箱館戦争時代に食糧庫として使用されていたと考えられています。 大

きさは 60 坪(19 平方メートル)。

★奉行所庁舎

明治 4 年(1871)の庁舎解体から 140 年、綿密な復元検討を重ねて平成 22 年に復元されました。ただし、復元された建物は総面積の約3分の1で、残りは地面に部屋割を区画した遺構平面表示されています。その内部は、備後本畳が敷かれた大広間、在任した奉行がしたためた掛軸、歴史発見ゾーン等の展示を順に見学出来るようになっています。

箱館奉行所庁舎古写真

(参考文献)

・日本城郭大系 ・日本廃城総覧 ・日本のかたち「城」 ・世界の要塞がよくわかる本 ・幕末日本の城・北の大地にそびえる死角なき「星形の城郭」 ・近代日本の万能人榎本武揚 他

※ホームページの「研究発表」に、拡大版を掲載していますので、お読みください。

令和元年度 ひょうご観光ボランティア ガイド交流会に参加して

世の中が新型コロナウィルスの感染で不安が広がる令和 2 年 2 月 19 日(水)、兵庫県民会館に兵庫県内の 28 団体・100 名が集まり、意見交換を行いました。当会からは末次幹事と私(酒井)の 2 名が出席しました。

最初に兵庫観光本部の高橋専務理事から昨年の外国人訪問は英国が前年対比 2.3 倍、豪州が 1.4 倍、その他が 1.2 倍と年々増加の傾向との報告があり、『外国人に対する良いガイドとは?』について話されました。

第 1 部の研修会では、一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューローで国際観光推進員のブラッド・トウル(カナダ人)氏が『外国人から見た現地ガイドの必要性と価値』のテーマで講演され、その後『ガイドとは何か?』について参加者同士で意見交換をしました。

一口にガイドといってもただ案内するだけではなく、地域の大使として、観光客の思い出作りのお手伝いをしているのです。外国人であれ、日本人であれ、相手の観光目的に合ったガイドをすることが大切です。

ベテランのガイドには、自分が物知りであることを自慢するように時間配分を気にせずおしゃべりするガイドがいるとの意見も出ていました。

また、最近ではインスタ映えする場所を紹介することにより、SNSでPRしてもらえて、集客力が向上する事例も増えているとのことでした。

第 2 部では、参加者がグループに分かれて、活発に意見交換を行い、グループごとに代表者が意見をまとめて発表しました。意見のまとめでは、外国人に対しては「気配り」、「目配り」、「心配り」の3つの配慮と、「満足」、「満腹」、「満喫」の3つの「満」がポイントだとのことでした。また、日本文化を体験から教えてあげることも必要ですし、日本人は表現が乏しいので、身振り手振りやハイタッチのように、ボディ・ランゲージも必要です。当然、笑顔で対応します。

今回初めて参加しましたが、兵庫県の 28 団体と交流できて、本当に良い刺激になり感激いたしました。当会からも同じ顔触れが参加するのではなく、できる限り交代で研修に参加し、そこでの刺激を日常の活動に生かしてほしいと痛感いたしました。

(酒井正憲 記)

ラジオ関西　時間です！林編集長　ラジオ番組に出演

2 月 19 日の午前、有岡城跡周辺でラジオ関西の「時間です！林編集長」の収録が行われました。

番組は神戸・兵庫・関西を中心に、新鮮な話題を届ける報道番組です。パーソナリティを務める林真一郎アナは神社・仏閣・城郭観賞が趣味で、今回のコーナーでは兵庫県のお城を訪問するシリーズの 3 回目でした。会から池田顧問が出演し、有岡城跡周辺を回りながら林アナのインタビューに応えました。放送は翌日の 3 時 45 分ごろから 10 分程度でした。

※放送はホームページの「雑記帳」の中にアップしています。

活動記録　（2 月～4 月）

【定例会】・2/11（火）

【歴史ロマン体験学習支援】

・2/15（土）マスク（お面）をつくろう

【どんぐり座公演】

・2/27（木）荒村寺「野間の 1 本松いたずら狐」・「桜物語」

マスク（お面）をつくろう

※3/10（火）と 4/14（火）の定例会、3/7（土）歴史ロマン体験学習支援は新型コロナウィルス感染症拡大予防対策のため、中止となりました。また、3/28（土）に予定していました第３回市民ガイド「御願塚を巡る」は中止となりました。

今後の予定　（5 月～7 月）

【定例会】・6/9（火）　・7/14（火）　・8/11（火）

【案内ガイド】・6/26（金）A コース（ぶらぶら歩きの会　大阪市）

文化財のガイドをしてみませんか

伊丹市内には有岡城跡や昆陽寺など、多くの文化財が残されています。文化財ボランティアの会は、伊丹市を訪れた方々に郷土の歴史や文化の魅力を伝える活動をしています。また、伊丹の民話を紙芝居で紹介するどんぐり座、歴史会、古文書会やパソコンを学ぶ分科会など、様々な分野で楽しみながら知識を広げています。

ぜひ、私たちの仲間になって、活躍の場を見つけてください。

会員になるためには、毎年 1 月～3 月に開催される全 8 回の養成講座を受講していただく必要があります。

養成講座についてのお問い合わせは

伊丹市教育委員会事務局内　文化財担当

（☎：072-784-8090）までご連絡ください。